

工藤ノリコ

JOSHIBI no.193



全エネルギーを作品に込めて。

工藤ノリコ(くどう・のりこ)

絵本作家、漫画家。1990年、女子美術短期大学造形科グラフィックデザイン教室を卒業後、1999年に『コバンツアーかぶしがいしゃ』(偕成社)で絵本作家デビュー。主な作品は、「ノラネコぐんだん」シリーズ(白泉社)、「ピヨピヨ」シリーズ(佼成出版社)、「ペンギンきょうだい」シリーズ(プロンズ新社)、「センシュちゃんとウオットちゃん」シリーズ(小学館)など。最新作は児童文学として第2作になる『ノラネコぐんだんと金色の魔法使い』(白泉社)。



累計200万部を誇る大人気シリーズ「ノラネコぐんだん」をはじめ、ユーモアあふれる作品を次々と生み出してきた絵本作家、工藤ノリコ氏。大切にしている母の教えや、女子美時代の思い出をはじめ、創作の土台となっているエピソードを伺いました。

Photo 安川結子 Text 立古和智

創作の原点となっているのは、あたたかい両親と2人の弟たちに囲まれて育った幼少期です。その頃から私は絵を描くことや、空き箱などを使って工作することが好きでした。当時、就寝前の習慣だったのは、母による読み聞かせです。毎晩、「キャプテン・クックの冒険」などの冒険ものを、少しずつ読み進めてくれました。朗読に耳を引き込まれていったものです。物語の続きを聞けることが毎晩とても楽しみでした。

物事の見方がひとつではないことや、自分で考えることの大切さを私に教えてくれたのも母です。今でも覚えているのが、小学生の頃の出来事。母の日のプレゼントとして、学校

から児童全員に造花のカーネーションが配られました。それを見た母は「お母さんがいない子にとっては辛いことだから、学校で二斉に配るのはおかしいと思う」と言いました。このように多角的にものを考える姿勢は、生きる上でも、作品づくりにおいても大切にしています。

女子美の短大では、グラフィックデザインを専攻しました。高校2年の秋に父が他界したこともあり、技術を身につけて就職に役立てたいと思ったからです。当時は、デザインも手作業が主流で、1年次には面相筆とガラス棒を使ってまっすぐ線を引いたり、大きな刷毛でB全パネルをムラなく塗るといった技術を学びます。こうした正確さの求められる作業に苦手

意識を感じた私はデザインの道を断念し、2年次からは「現代美術コース」を専攻しました。ここで説明が難しい現代美術の世界を熱心に指導してくれたのが、楠元恭治先生です。シユレアリスムやポップアートなどの作品、「アンダルシアの犬」などの映画を鑑賞するその授業は最高に充実したひとときでした。「何かを作りたい」という意欲はみなぎっているものの、技術が追いつかない当時の私にとって「作家とは」「創作とは」という学びは、本当に刺激的でした。

一方、映画、音楽、漫画といったカルチャーを教えてくれたのは、女子美の仲間たちです。个性的でありながら、他人の意見を尊重する器の広い彼女らとは、絵や創作が好きという共通点が

あります。だから、「一緒にいると本当に心地が良かった。」「感性の近い仲間たちと、ずっと創作の世界で生きていきたい」という、このときの願いが今の私を形成しているのかもしれない。

卒業後はテーマパークの装飾部門に2年間務めた後、職場で出会った夫と結婚し、イラストの仕事を請けながら絵本作家を目指しました。「お金のことは気にしなくていいから、全力でやるといいよ」と背中を押してくれた夫のおかげで、1998年に転職が訪れます。地方の求人冊子で、4コマ漫画「がんばれ!ワンワンちゃん」の連載がスタートしたのです。当初は「週1ペースでアイデアを出し続けるなんて無理」「数ヶ月で終わるかも」と思っていました。結果的には11年



「ノラネコぐんだん ケーキを食べる」
白泉社



「ノラネコぐんだん カレーライス」
白泉社



「ノラネコぐんだん アイスのくに」
白泉社

身、幼少期は絵本やアニメ番組などの名作に胸を弾ませました。今度は私がワクワクを提供する番です。子どもたちを楽しませ、元気づける作品を、ずっと作り続けていきたいと思っています。

創作中には疲れていたり、気分が沈みがちな時もありますが、それでも机に向かうのは、向かっていると楽しくなっていくのが常だからです。私は目の前にある作品だけに集中するタイプで、手がけている作品に全力を注ぎたい。作品をつくる上で大切にしているのは、「子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしい」という思いです。私自

も続きました。その後、白泉社の絵本雑誌「MOE」に移り、『ワンワンちゃん』というタイトルで連載を再開。これは現在も続いており、足掛け22年にも及ぶ長寿連載になっています。

この作品の脇役として登場したのが「ノラネコぐんだん」です。白泉社の子育て情報誌「Edomoe」で「ノラネコぐんだんを主人公にした絵本を描きませんか？」と提案されたのがきっかけで、付録用の絵本を描き始めます。2012年には1冊の絵本として『ノラネコぐんだん パンこっじょう』を出版。これ以降、幸いなことに19冊ものシリーズ作品が生まれています。



新任教員からみなさんへ



春日 亀 美智雄
Michio Kasugame
芸術学部 デザイン・工芸学科
プロダクトデザイン専攻
特任教授

プロダクトデザインは生活のあらゆるものが対象です。日々の暮らしの中で、細かい観察からの発見・気づきがとても大切です。それをどう実現するかがデザインで、生活を豊かで快適なものに変えていけます。デジタル技術はどんどん進化していますが、アナログな身体感覚＝手を動かして考えるプロセスも大事です。美大生には夢や企画を絵やカタチ、立体で伝わりやすい表現で見せることができます。そのためのスキル・基礎力を磨き、発展させてください。困難な学びの状況が続きますが、仲間を大切に、刺激を与え合いながら濃い学びを一緒にしていきましょう。

1960年栃木県生まれ。1983年筑波大学芸術専門学群生産デザインコース卒業。小西六写真工業株式会社デザイングループ、シライ・インダストリアルデザインを経て、1987年、春日亀意匠設立。食・遊具・景観をつくるプロダクト・ユニット住宅の外壁レリーフ・インテリア部材・展示什器・3Dプリントを活用したプロトタイプ・立体オブジェ、などのデザインに関わる。



植山 満照
Mitsuteru Narayama
芸術学部
共通専門
特任准教授

「美術史」と聞くと、なんだか堅苦しい歴史の勉強、と思う学生も多いのではないのでしょうか。でも美術史って実際は、絵画という二次元の世界、彫刻という三次元の世界から、時間（歴史）という四次元の情報を読み取っていく面白い学問なんです。そこからは、歴史書では語られることのない異なる価値観の接触や、多様な文化と表現が融合していく様子が垣間見えるはず。美術作品の醍醐味は、つくったり、鑑賞したりするだけではありません。作品を考察の対象として、「見える歴史」である美術史の魅力と責務を、皆さんと一緒に体感していきたいです。

1977年埼玉県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科美術史専攻博士後期課程満期退学。博士（文学：早稲田大学）。日本学術振興会特別研究員PD、早稲田大学文化構想学部専任講師を経て現職。専門は中国を中心とする東アジア古代美術史。著書に「蜀の美術一鏡と石造遺物にみる後漢期の四川文化」。



白井 美穂
Miho Shirai
芸術学部 美術学科
洋画専攻
特任教授

在学中に様々な人たちとの出会いを通して身につけた知識や技術、思考方法、制作の方法は、生涯に渡って自分の表現活動の軸となることと思います。この時期にしか作れない作品を生み出すことを目指しましょう。先生達や同級生は、皆さんの出来たばかりの作品の最初の観客です。アトリエは、この先より大きな世界に向かって船出するための練習と実験の場です。思い切り挑戦してください。柔軟な心で世界の様々な様相と対峙し、新たなものの見方を提示する方法を探りながら、自分自身が変容していく過程を楽しんでください。

1962年京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。絵画、立体、インスタレーション、映像など複数のメディアによる制作を行い、国内外で作品を発表する。



加藤 尚子
Naoko Kato
芸術学部 デザイン・工芸学科
工芸専攻
特任准教授

手を動かし、自分の中にあるものを具現化していく行為。それは特別な感覚や喜びを私たちに感じさせてくれます。生き物としての喜びに近い感覚です。そうして生まれたものを介して他者と分かり合えることは、不思議とより本質的なことに感じる時があります。これからの社会は加速してIT化が進んでいくでしょう。しかし私たちの脳は原始からあまり変化していないそうです。持続可能な社会を築いていく上で、手からものを生み出す工芸の仕事は私たちの生活を豊かにし、素材への探究は生きるヒントに繋がるのではないかと思います。作品を介して、皆さんと繋がって行けることを楽しみにしています。

1972年神奈川県生まれ。1996年女子美術大学芸術学部工芸科卒業。2001年より女子美術大学非常勤講師として勤務。キルンキャスト（ガラス製造）技法による作品制作を行い、国内外で作品を発表。その他、企業やホテルをはじめとする建築空間に作品を設置している。

退職された先生方

芸術学部	デザイン・工芸学科	ヴィジュアルデザイン専攻	教授	立花文穂
	デザイン・工芸学科	ヴィジュアルデザイン専攻	教授	野又 穂
	デザイン・工芸学科	プロダクトデザイン専攻	教授	田村俊明
	デザイン・工芸学科	工芸専攻	教授	工藤 直
	アート・デザイン表現学科	ヒーリング表現領域	教授	山野雅之
短期大学部	造形学科	デザインコース	教授	伊藤雅敏

新入生に向けて



学校法人女子美術大学
理事長 福下 雄二

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。心からお慶びと歓迎を申し上げます。

本学は、昨年創立120周年を迎えた、私立の美術大学としては最も古い歴史と伝統を誇る大学であります。これからの女子美術大学を創っていただくのは皆様であり、皆様の力によって女子美術大学の歴史と伝統をより一層輝かしいものに築き上げていただくと期待しております。

そして、これからの学生生活では、人との出会いやご縁を大切に、良き友人に恵まれ、良き先生に巡り会い、良き書物に出会えるよう努力していただき、豊かで充実した学生生活を送ってください。

コロナ禍の中で、不自由、ご不便をおかけすることになるとは思いますが、皆様や先生方そして大学が力を合わせてこの困難を乗り越えることができますよう、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



女子美術大学
女子美術大学短期大学部
学長 小倉 文子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。1900年に創立した女子美術は、女性の自立を建学の精神として今年で121年を迎えます。

賢母良妻の考えが主流だった当時の女子教育の中にあつて革新的な学校の登場でした。この精神は現在まで受け継がれ、多くのアーティストやデザイナーを輩出してきました。また、起業する卒業生も多く、職種も多岐にわたります。考える力、生きる力を身に付け活躍の場を広げた結果といえます。

大学生活では学科専攻領域を越えて自由に参加できる産官学と連携して行うプロジェクトや異分野と協同で行うプロジェクトが多数あります。また、海外で行うインターンシップや留学制度なども充実しています。行動することによって皆さんのモノと出会い、たくさんの人とつながります。

正課授業で習得する知識や技術に加え、正課外のプロジェクトに参加することで出会うモノやコトを最大限活用し、社会とつながり、学科を越えた仲間たちとともに体験を通して成果を上げられることを期待しています。



短期大学部部長
佐藤 真澄



芸術学部長
清水 美三子



大学院美術研究科長
川口 吾妻



副学長
後藤 浩介



副学長
松本 博子

Q 5

制作・仕事をする上で大切にしている考え方を教えてください。

一時フリーランスで活動していた時期があったせいか、以前は自分ひとりでなんでもやって完結してしまうタイプだったのですが、チームでブレインストーミングやコラボレーションする楽しさを覚えてからは、いろいろな手法やアイデアを柔軟に取り入れ、しばしば起こるアクシデントや計算外の展開を楽しみつつ、毎回新しいもの、前回より良いものを生み出すように心がけています。

Q 6

大学時代にやっておくべきことについて、アドバイスをお願いします。

好奇心のアンテナを張り巡らせて、めいっぱい遊び、学んでください。友達と助け合ったり積極的に教授の先生方とコミュニケーションをとってください。大学時代に培った経験は一生の宝物になると思います。

Q 7

海外で制作・仕事をする事の“楽しさ”を教えてください。

ありきたりですがまず日本の良さを再発見できたことです。また複数の文化を経験することによって、物事を違った視点から見る訓練ができ、ひとつの枠にとらわれないで自由にデザインできるようになりました。私の属するチームのメンバーはそれぞれ皆違う文化のルーツから来ていて、私達まるで国連みたいだねと冗談を言い合っていますが、お互いを尊重し価値観のすり合わせをしながらチームワークすることでいつも何か気づきがあり、勉強になります。

Q 8

やりたいことや夢を実現するためのヒントを教えてください。

経験から言うと、『これをやらなくては』ではなく、ぼんやりでも『あれをやってみよう』というアイデアやイメージを集めると次第に何かの形になっていき、だんだん固まってくると実現するための具体的な方法や、助けを頼めそうな人がおのずと現れるのではないのでしょうか。私は地味に積み上げていくタイプなので派手な飛躍はないのですが、その節々でお世話になった方々のご恩に感謝しながら、ひとつひとつ丁寧に仕事をこなしてきたおかげで、時々転びつつもなんとかやってこられました。

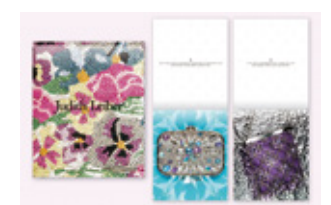
Q 9

後輩(女子美生)に一言メッセージをお願いします。

創立以来新しい女性像をいつもリードして来た女子美は卒業生として自慢であり誇りです。皆さんの将来のご活躍を祈って応援しています。



Beyoncé Pulse Fragrance



Judith Leiber Catalog



左: Estée Lauder Blue Indigo Metal Compact / 右: Estée Lauder Zodiac Metal Compact



飯塚麻里子 (いづか まりこ)
 グラフィックデザイナー。1993年産業デザイン科デザイン・グラフィック専攻卒業。松崎笙子先生に師事。エディトリアル・デザイナーとして印象社勤務のち1998年に渡米、同年NYパーソンズ・スクール・オブ・デザインのコミュニケーション・デザイン科に学士入学、2000年Honorsで卒業。デザイン・コンサルタントとして主にエステー・ローダー、ロレアル、コティをクライアントにパッケージ、広告、グラフィック全般をディレクション&デザイン。2014年よりクラランスUSAクリエイティブ局勤務。シニアデザイナーとしてECからプリント、パッケージ、PR、広告、店舗、ディスプレイなど多岐に渡ってコンセプトからデザイン展開・制作を手がけている。NY在住。
 marikoizuka.com

飯塚 麻里子



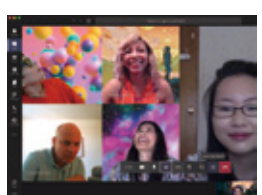
Justin Bieber Fragrance



左: Clarins Holiday Window Display



右: Clarins Total Eye Lift Training Kit



チームでビデオミーティング



My Clarins Grow Trip Poster

Q 1

なぜ海外で活動・仕事することを選んだのですか？

新卒でたまたまエディトリアルデザインの仕事に就いたのですが、ひととおり面白さを満喫するとさらに先のデザインに挑戦したくなり、ある日思い立ってニューヨークに行くことを決めました。旅行で海外に行く機会はありませんでしたが現地での生活をもっとリアルに体験してみたいと思ったのです。英語を猛勉強し毎日徹夜で課題を制作したパーソンズを卒業後、現地NYでチャンスに恵まれグラフィックデザイナーとしてスタートすることができ、現在に至っています。

Q 2

女子美時代は、どんな学生でしたか？

わりとのんびりしたペースで学生生活そのものを楽しんでいたように思います。常に友達と美術やデザイン、映画、音楽の情報を交換して、面白いものを探しに出かけていました。女子美のテニス部に在籍していたこともあります。専攻したグラフィックはもちろん1・2年次の基礎デザインでプロダクトとインテリアのクラスも面白くて夢中になりました。回り回ってそれらが現在のデザインの仕事にとても役に立っています。

Q 3

女子美時代の印象深い思い出を教えてください。

ひとつめは、教授の松崎笙子先生との出会いです。先生のかぶく浴衣に見られる、伝統と現代を融合した斬新なデザインスタイルと、凛とした強さを秘めた優しいお人柄は、デザイナーとしてだけでなく女性として、日本人として、いまでも変わらず心から誇りに思っています。もう一つは女子美祭の後の振替休日に、クラスメートと車を走らせて茨城の水戸へクリスト展を見に行ったことです。残念ながら屋外の青い傘のインスタレーションは終わっていたのですが、水戸芸術館でローイング作品とメイプルソープの写真展を見ることができました。女子美の友達とその時代の美術をライブで体感できたことはかけがえのない思い出です。

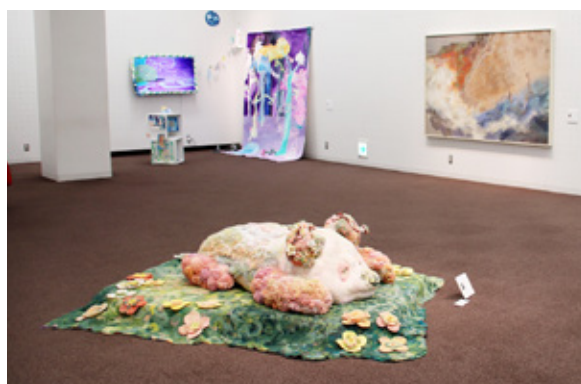
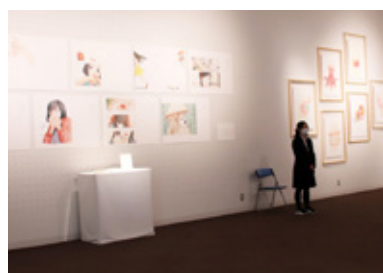
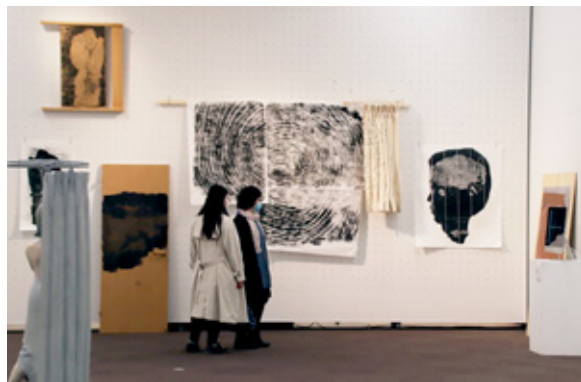
Q 4

美大の中でも、女子美を選んだのはなぜですか？

女子高に通っていたからか、いわゆる美大という枠にとられない、女の子ばかりののびのびとした雰囲気に着かれました。受験時は杉並キャンパスだったので都心で勉強できるのも魅力でした。相模大野移転は初めはちょっとショックでしたが真新しい広々としたキャンパスで勉強と制作に打ち込めたのは本当にラッキーでした。

MARIKO IZUKA NEW YORK

MARIKO IZUKA NEW YORK



東京都美術館とオンラインにて開催 「JOSHIBISION 2020」



昨年は新型コロナウイルス感染症の蔓延防止により実施を断念いたしました「JOSHIBISION」、今年も「JOSHIBISION 2020ーアタシの明日ー」と題し3月2日～6日まで東京都美術館にて無事に開催することができました。

『オール女子美』をスローガンの元、本学大学院、芸術学部・短期大学の各研究室から選ばれた作品、付属高等学校の卒業制作を一同に展示。今年で5回目の開催となる「JOSHIBISION」は JOSHIBIX EXHIBITION×VISIONをこないだ造語で「いまを生きる、等身大の学生たちのさまざまな視点が集まり、ともに未来をみつめていこう」というメッセージが込められています。

今回は新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、会期中のみ全展示作品が観覧可能な特設サイトを設け、初の来場型・オンライン型のハイブリッド形式による同時開催となりました。例年開催されているレセプションは実施できませんでしたが、ゲスト審査員である假屋崎省吾先生（本学客員教授）・小松美羽先生（本学特別招聘准教授）・桃井かおり先生（本学客員教授）・山口裕子様（本学卒業生／ハローキティデザイナー）にもオンラインで展示作品をご覧いただき、コメント・メッセージを頂戴いたしました。



コメント・メッセージはこちらでご確認いただけます
<https://www.joshibi.ac.jp/joshibision2020/message>



04 | 保護者対象「進路・就職説明会」

2月27日に本学キャリア支援センター主催による在学生の保護者対象「進路・就職説明会」がオンラインで開催されました。10月に引き続き第2回目となる今回は、第一部にキャリア支援センター担当部長で特別招聘教授の門馬昌道氏によるテーマ「VUCA 時代的女子美のキャリア支援」美大生の感情報酬（大事にしたいこと、仕事のやりがい）にスポットを当てた女子美生のキャリア指導について講演が行われました。第二部

では内定を受けた卒業間近の3名の在学生と保護者様から「就職活動実体験談」としてコロナ禍での就職活動について大変参考になるお話をうかがいました。また、同センターから「今どきの就活を知りましょう」「親にできること 親にしかできないこと」など、親の就活サポートへの不安や疑問を解決する保護者向け就活ガイドブック「特別企画号 家族で頑張る。家族で支える。親子就活のススメ」について紹介がありました。



01 | 相模原の環境をよくする会のエコバッグをデザイン

本学デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻卒業生である谷下美汐さんが、本学も会員である「相模原の環境をよくする会（事務局：相模原市環境政策課内）」から制作依頼を受けエコバッグのデザインを行いました。自然を大切にする気持ちを表現するハート型の葉と、相模原市の鳥であるひばりを構成しデザインされたこちらのエコバッグは「相模原の環境をよくする会」の会員企業に向けたノベルティとして作成し、配布されました。

NEWS — & — TOPICS



05 | 2020年度 女子美術大学大学院・芸術学部・短期大学部 学位・修了証書授与式

2021年3月15日と16日、女子美術大学大学院・芸術学部・短期大学部の学位・修了証書授与式が両キャンパスで執り行われました。例年、学位・修了証書授与式は中野サンプラザで開催していますが、今年度は、席に間隔を設け、密を防ぐなど、新型コロナウイルス感染症感染防止

対策を徹底し、準備の行き届く両キャンパスの体育館にて学科別に4回に分け、2日にわたり開催されました。また、当日、式に参加できない卒業・修了生及び列席をお控えたいた保護者の皆様に向けて、オンラインによるライブ配信も行われました。



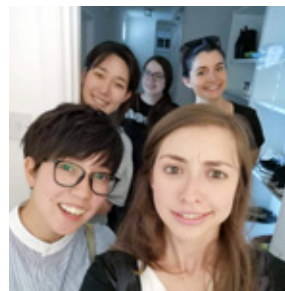
03 | 世界のイベント事情 -お正月編-日本・韓国・台湾

国際センターでは『女子国際交流イベント』の企画として「世界のイベント事情-お正月編-」をオンラインで開催しました。12月（日本）、1月（韓国）、2月（台湾）と毎月1つの国をテーマにそれぞれの国のお正月の過ごし方や、お正月ならではの特別な食べ物、お互いの文化の違いやプチ語学講座など、学生プレゼンターにより紹介されました。また、本学の学術交流協定校、韓国「誠信女子大学校」、台湾「国立台湾芸術大学」の紹介もあり、海外留学や異文化交流に興味のある学生が、留学生・日本人を問わず楽しく交流できる参加型のイベントとなりました。



02 | 相模大野駅ピアノ装飾プロジェクト

本学デザイン・工芸学科環境デザイン専攻3年生11名が、小田急相模大野駅ステーションスクエア3階アトリウム広場の装飾プロジェクトに参加しました。相模原市南区の区制施行10周年記念事業として、相模大野駅に飾られたクリスマスツリーとともにグランドピアノを設置。ピアノの周りを「いたずら小人のクリスマス演奏会」というテーマで装飾し、希望者はピアノを演奏できるという参加型アート作品を制作しました。学生はコロナ禍で海外や日本の帰省先からオンラインで打ち合わせに参加。授業で培ったミーティングツールやデータ制作のノウハウを生かしながら制作を行った装飾は、12月15日～25日まで展示されました。

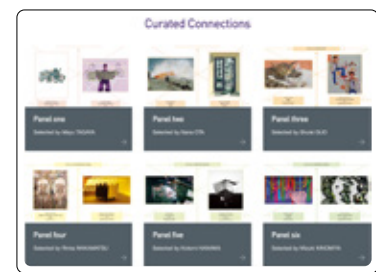
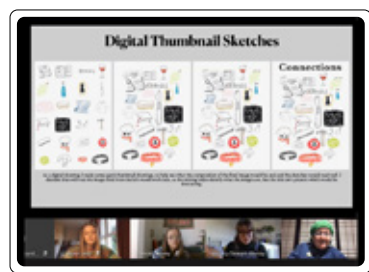


07

在籍したまま希望の留学先へ 留学する「認定海外留学」 授業料減免の制度が新設されました

世界の美術・デザイン系の高等教育機関から自分の希望に合った留学先を選ぶことのできる「認定海外留学」。留学先から入学許可を得て本学に申請し、許可が得られると4カ月以上1年以内であれば本学に在籍したまま留学が可能な制度です。しかしながら、留学中は留学先大学の学費と、本学の学費を二重に支払う必要があることが学生にとっては大きな負担となってきました。このたび、年間4名まで

の学生に対しては、留学中の本学の学費が在籍料（授業料の4分の1）のみに減免される「認定海外留学生授業料等減免」の制度が新設されました。これによって経済的コストを大幅に抑えて希望の留学先に留学することが可能となりました。海外留学を目指す学生を最大限サポートする女子美ならではの制度ですので、多くの学生にチャレンジしていただきたいです。



08

「Connections」ラフバラ大学と女子美術大学 ジョイント・ポストカード展覧会

今年で6年目を迎える本プロジェクトは、本学芸術学部美術学科芸術文化専攻2年生とイギリスのラフバラ大学による共同プログラムです。毎年テーマを設定し、そのテーマにそったポストカード作品の展覧会を開きます。今年のテーマは「Connections」。女子美術大学の全学生を対象とし、展覧会の作品を募集いたしました。集まった本学学生の作品の

33枚と、現地学生の作品を交えてオンライン上で展覧会を開催。毎年、芸術文化専攻の学生がイギリスへ行き、ラフバラ大学の先生と学生と一緒にポストカード展の準備をしますが、今年は新型コロナウイルスの影響により渡航が出来なかったため、両大学合同のオンライン授業を行い準備しました。



展覧会はここから
ご覧いただけます。

06

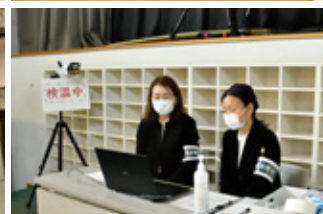
2021年度 女子美術大学 大学院・芸術学部・短期大学 入学式

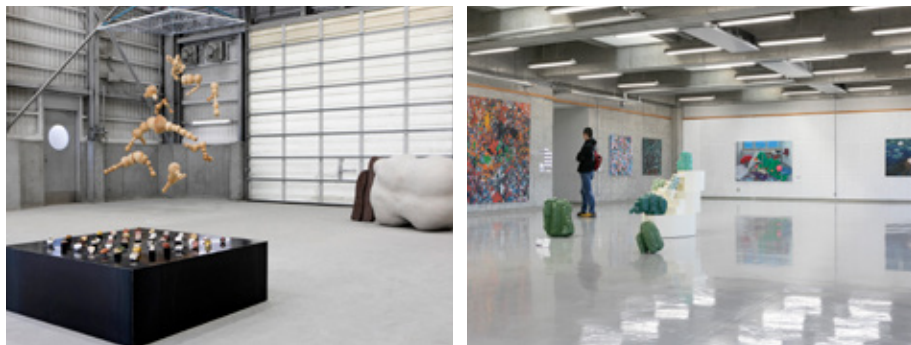
2021年度女子美術大学大学院・芸術学部・短期大学の入学式が4月7日（水）相模原キャンパス、4月8日（木）杉並キャンパスにて開催されました。

今年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じ、各キャンパスの体育館において学科別に開催。また、当日列席できない新入生や保護者の皆様に対し、入学式の模様をライブ配信いたしました。

式では、小倉文子学長より「1年間受験生として心配や不安が数多くあったとは思いますが、今日こうして入学式を迎え、式を執り行うことができましたことを大変嬉しく思います。120年前の創立当初はまだ電氣も通っていない時代でしたが、そうした状況の中でも美術を学び、社会で活躍する卒業生を数多く輩出してきました。本日入学されたみなさんも、これからの学生生活の中で困難な場面に出会うかもしれませんが、これまでの先輩方の背中をみて、有意義な学生生活を送っていただければと思います」。福下雄二理事長からは「新入生のみなさんに2つお伝えしたいことがあります。1つ目は、これからの女子美の歴史と伝統と校風を作っていく存在として、より一層輝かしいものとなるよう励んでいただきたいと思っております。そして2つ目は、人との出会いや縁を大切に、よき友人や先生、書物に出会い、豊かで充実した学生生活を過ごしていただきたい」と新入生及び保護者の皆様に向けて祝辞が述べられました。

今年度、女子美は、大学院美術研究科 42名、芸術学部 683名（編入含む）、短期大学部 180名（専攻科含む）、計905名の新入生を迎えました。



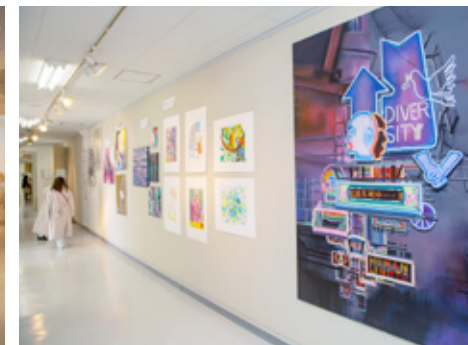


来場型・オンライン型のハイブリット開催

2020年度卒業制作展／修了制作展

また、今年は新型コロナウイルス感染症感染防止対策として会場にお越しただけなくともご観覧いただけるよう、特設サイトでのオンライン展示も同時開催しました。コロナ禍で制作時間や場所が限られたなか、学生生活の集大成となる例年に劣らない大きくて力強い作品が数多く展示されました。

本学大学院・芸術学部・短期大学の2020年度卒業制作展／修了制作展が杉並と相模原の両キャンパスにて行われました。芸術学部と短期大学部は3月12日～14日、大学院の展示は3月9日～14日の期間で開催。

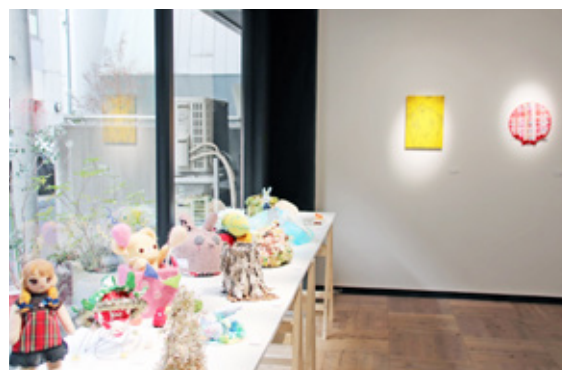
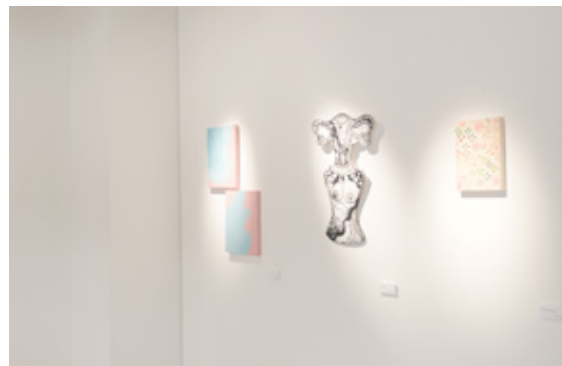
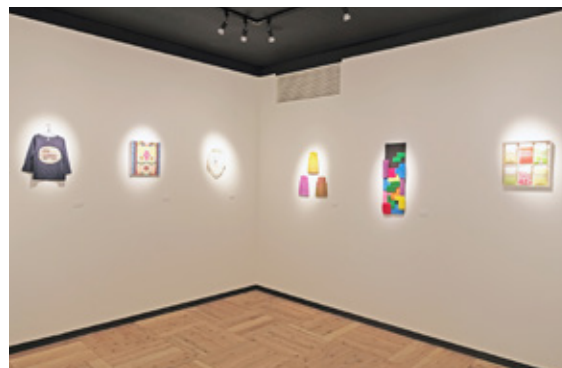


1月から3月にかけて各学科・専攻・領域・コースごとに行われました学外での卒業・修了制作展の様子をご紹介します。新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じた上での実施となりましたが、学生生活の集大成である卒業・修了制作を見るために、多くの在学生や保護者、卒業生などが会場を訪れました。

2020年度 学外卒業・修了制作展

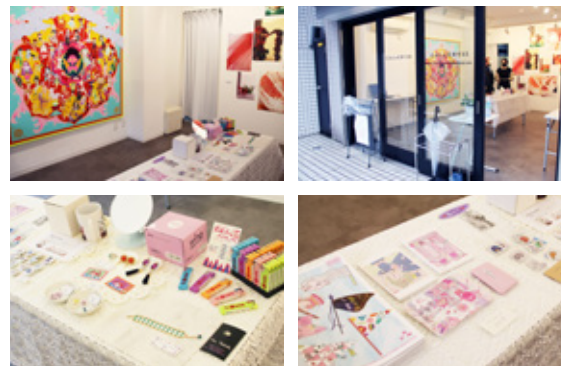
女子美術大学短期大学部 造形学科
デザインコース テキスタイルデザイン
卒業・修了制作学外展「ミニチュール展」

会期:2月11日～2月14日 会場:Nine Gallery (東京都港区)



女子美術大学 芸術学部
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻
卒業制作有志展2021「SOTUSEI」

会期:2月27日～3月4日 会場:GALLERY33 (東京都杉並区)



女子美術大学 芸術学部
美術学科 美術教育専攻
卒業制作展「roots」

会期:1月28日～1月30日 会場:町田市民ホール(東京都町田市)



女子美術大学 芸術学部
デザイン・工芸学科 工芸専攻
卒業制作展2021「C_未知なる工芸」

会期:2月11日～2月15日 会場:Spiral Garden(東京都港区)



女子美術大学美術館賞



修了制作及び卒業制作が優秀な学生に授与される女子美術大学美術館奨励賞受賞者の中から1点が「女子美術大学美術館賞」に選ばれて女子美術大学美術館に收藏され、賞状と副賞が贈られました。

『吾相』 吉松由梨亜
大学院美術研究科博士前期課程
美術専攻版画研究領域

令和2年度・第44回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展 開催

2月20日～2月27日の8日間に渡り、東京五美術大学（日本大学芸術学部、武蔵野美術大学、多摩美術大学、女子美術大学、東京造形大学）の美術系学科による卒業・修了制作展「東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」が国立新美術館にて開催。新型コロナウイルスの影響で今年は開催も危ぶまれた制作展ですが、入場人数の管理や手指消毒の徹底など感染防止対策を行ったうえで、例年通り開催することができました。コロナ禍で制作にも影響があったものの、学生たちのたゆまぬ努力と熱意によって、各大学の個性とエネルギーに満ち溢れた大作がひしめく展覧会となりました。



2020年度 特別賞

順天堂 佐藤志津・小川秀興賞

学校法人順天堂と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2016年度より優秀な卒業制作に対して「佐藤志津・小川秀興賞」を授与いただいております。本年度は以下の学生が受賞し、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は順天堂大学内に1年間展示されます。



『厨房が見えそうな席』 佐藤遥加
芸術学部美術学科洋画専攻（絵画）

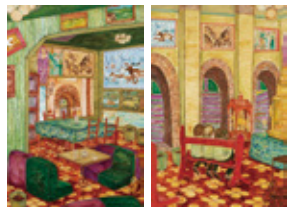


『美園大猫図』 泉館花耶
芸術学部美術学科日本画専攻

東京理科大学賞

学校法人東京理科大学と本学は連携・協力に関する協定を締結しており、その一環として2015年度より優秀な卒業制作に対して「東京理科大学賞」を授与いただいております。本年度は以下の学生が受賞し、賞状と副賞が贈られました。選出された作品は東京理科大学内に1年間展示されます。

東京理科大学 学長賞



『十三時 (13:00)』『Alas dose (12:00)』
佐藤遥加
芸術学部美術学科洋画専攻（絵画）

東京理科大学 坊っちゃん賞



『閉じ込めた青V』 西野ふう
芸術学部美術学科洋画専攻（版画）

東京理科大学 マドンナ賞



『饅う』 山内奈々
芸術学部美術学科日本画専攻

JAM・女子美ガレリアニケ

2020年度 女子美術大学退職教員記念展
2021.1.8(金) - 1.27(水) オンライン開催

JAM

2020年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展
2021.3.9(火) - 3.14(日)

2020年度に本学大学院美術研究科を修了する学生が制作した修了制作作品の展覧会で、相模原キャンパス(女子美アートミュージアム)では、洋画、日本画、版画、立体芸術、ヴィジュアルデザイン、環境デザイン、プロダクトデザインの領域を専攻した学生の作品を紹介しました。オンライン同時開催。

女子美ガレリアニケ

2020年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展
2021.3.9(火) - 3.14(日)

2020年度に本学大学院美術研究科を修了する学生が制作した修了制作作品の展覧会で、杉並キャンパス(女子美ガレリアニケ)ではメディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュースの領域を専攻した学生の作品を紹介しました。オンライン同時開催。

JOSHIBI AP Graduate & Degree Show 2020

2021.3.12(金) - オンライン開催

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院による卒業・修了制作作品をオンラインで開催しました。

歴史資料展示室

女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年
2020.4.7(火) - 12.25(金) 開室日数:8日間

収蔵資料に加え、各時代において本学を導いた先人たちの言葉を紹介しました。また、臨時開室に伴いWEBサイトにて展示紹介動画を配信しました。

JAM

女子美術大学美術館コレクション 柿内青葉展
2021.5.19(水) - 6.26(土)

大正から昭和にかけて活躍した、鎌木満門下の女性画家。作品やスケッチブック、書簡などの未公開資料を一堂に公開し、柿内青葉の全容を紹介する展覧会。

女子美染織コレクション展 Part9 舞楽装束

2021.9.29(水) - 11.6(土) *10月24日(日)特別開館

舞楽の演奏形態の一つである舞楽に用いる華やかな衣装を展覧します。

2021年度 女子美術大学退職教員記念展

2022.1.12(水) - 1.28(金)

2021年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

2021年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2022.3.9(水) - 3.14(月) *会期中無休

2021年度に大学院博士前期課程を修了する学生作品を展示します。

フォトシティさがみはら第20回記念事業 「ブラジル現代写真展」
コスモカオス(混沌と秩序)現代ブラジル写真の新たな展開

2021.7.7(水) - 7.19(月) *会期中無休

相模原市と友好都市であるブラジルの写真家5人を紹介する展覧会です。

〈同時開催〉

コロナカ・コロナゴ写真展

会場:Joshibi SPACE 1900

女子美術大学の在学生在がコロナ禍に経験したことやコロナ後の想いをInstagramで表現した写真展。

2021年度 女子美術大学大学院博士後期課程研究作品発表会

*開催は学位の申請状況により変更があります。

女子美ガレリアニケ

ニケキュレーターズセレクション#05 齊藤彩展

2021.5.14(金) - 6.16(水)

本学卒業の若手アーティストを紹介する展示。本年は、齊藤彩の作品をご紹介いたします。

国際彫刻交流展

2021.9.13(月) - 10.1(金)

本学教員とOG、国内彫刻家、イタリア、コロンビア、韓国、台湾等、約20名の彫刻作品による交流展を開催します。

女子美術大学120周年

女子美術大学×バリ「国際芸術都市」20周年記念展

2021.10.30(土) - 11.20(土)

本学創立120周年を記念した展覧会。2019年に現在欧州に在住、活躍するバリ賞受賞作家の展覧会をバリ国際芸術都市ギャラリーにて開催、今年は国内で活躍するバリ賞受賞作家を中心に開催します。

JOSHIBI AP Graduate & Degree Show 2021

2022.1.14(金) - 1.26(水)

アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域4年生・大学院生による卒業・修了制作の作品を紹介します。

女子美術大学短期大学部1年前期「基礎造形2021」展

2021.7.2(金) - 7.21(水)

短期大学部1年生が自由選択授業で制作した18講座の学生作品を展示します。

第14回 四大学合同写真展「〇(まる)展」

2021.10.13(水) - 10.24(日) *10月24日(日)特別開廊

女子美術大学・東京工芸大学・長岡造形大学・中国伝媒大学の四つの大学でそれぞれ写真を学ぶ学生の写真展を紹介いたします。

2021年度 女子美術大学退職教員記念展

2021.12.3(金) - 12.22(水)

2021年度に本学を定年退職される実技系教員による展覧会です。

2021年度 女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展

2022.3.9(水) - 3.14(月) *会期中無休

2021年度に大学院博士前期課程を修了する学生作品を展示します。

歴史資料展示室

2021年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み

2021.4.7(水) - 2022.3.18(金) *休室日 火・日・祝日、2021.7.22~9.12、10.30、12.25~2022.1.11

収蔵資料に加え、女子美術大学美術館収蔵女子美染織コレクションを随時数点公開します。

展覧会報告 PICK UP

2021.1.8(金) - 1.27(水)

オンライン開催

2020年度 女子美術大学退職教員記念展

女子美術大学退職教員記念展は、これまで相模原キャンパス(JAM)と杉並キャンパス(女子美ガレリアニケ)で開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により変更を余儀なくされ、オンラインによる展覧会として実施しました。一方で、退職される4名の先生方の作品をオンライン上で一堂に会して観ることができる、これまではない機会となりました。

オンラインによる展覧会は、実際の作品を前にした鑑賞とは異なり、物理的に会場に足を運ぶことが難しい海外や遠方の方々にも展覧会を鑑賞してもらうことが可能となりました。それは、来場者数に代わる展覧会サイトへのアクセス数が例年以上だったことが物語っています。人と人の関わりが止むを得ず少なくなった中でも、これまで展覧会の広報ツールとして活用していたオンラインが、新たに鑑賞者と作品をつなぐ機会を提供できた一例となりました。

4名の先生方は、長きにわたり教鞭を取られ、後進の教育に携わるとともに、作家として創作活動に取り組んでこられました。本展はその幅広い活動と軌跡をご覧いただくことにより、本学の教育・研究に対して理解が一層深まる機会となりました。

〈退職された先生方〉

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 教授 野又 穂先生(左から2人目)

芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 教授 田村俊明先生(左から4人目)

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 教授 工藤直先生(右から3人目)

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 教授 山野雅之先生(左から3人目)

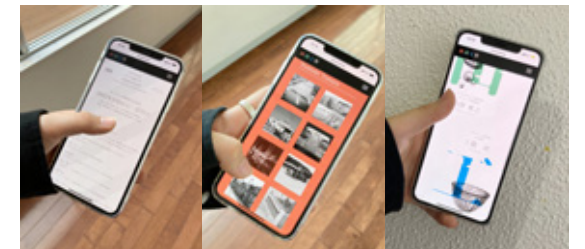
小倉文子 学長(右から2人目)

松本博子 芸術学部長(撮影当時、現副学長)(左端)

稲木吉一 美術館長(右端)



©水川史生





女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 林規章・佐藤真澄・松山智一
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2021年6月25日
© 2021 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <https://www.joshi.ac.jp>